

You, Unlimited

龍谷大学大学院

農学研究科

Graduate School of

Agriculture

2027



RYUKOKU
UNIVERSITY

食農科学専攻

Department of Food and Agricultural Science

食と農による社会的イノベーション

食と農は近年大きな注目を集めています。人類の永続する幸福の中心になるのは食であり、それを支える食と農は身近で大切な学問分野になっています。そこでは、理論を踏まえた実践が必要とされています。

社会の発展に伴い、食と農には社会との複雑な関わりが増加しました。現代は多くの分野にまたがる研究が待望されています。専門にとどまっては解決できない問題が増えてきているからです。

新しい時代の要求に対応するために、本大学院では、農学部4つの学科である生命科学科、農学科、食品栄養学科、食料農業システム学科を1つの専攻に再編した大学院組織を作り『食』と『農』を一体的にとらえた実践的な教育研究を進めます。「食と農による社会的イノベーション」が食農科学専攻の目指す研究・教育の地平です。



農学研究科	食農科学専攻	修士課程	(入学定員30名)
		博士後期課程	(入学定員5名)



- 「食」と「農」を一体的に捉えた学際的な教育・研究
- 専門分野の教育・研究に多彩な周辺学問領域の成果をプラス
- 実務経験と科学の融合
- 研究倫理、生命倫理、環境倫理、社会倫理に配慮した教育・研究

教育理念・目的

建学の精神に基づいて、高い倫理観と高度な専門知識、技能を併せ持ち、「食」と「農」に関わる諸問題の解決と持続可能社会の実現、地域社会の活性化に寄与し、「食」と「農」を対象とした学問研究の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

食農科学専攻が養成を目指す人材像

「食」と「農」の知を融合し、社会に求められる人材を養成

- 1 「本質を知り、未来志向で考え、倫理的な価値判断のできる」人材
- 2 「ローカル・グローバル双方の視点を有し、国内外の問題解決に貢献できる」人材
- 3 「食と農の地域的なつながりを土台とした地域再生・活性化に寄与できる」人材
- 4 「食と農に関わる学問の発展に貢献できる」人材
- 5 「高度専門職業人、研究者として備えるべき知識・スキルを有する」人材

修士課程

想定される進路

- 「食」や「農」に関する開発研究や実践研究に従事する研究職
- 大学院博士後期課程進学、その他

主な進路先

農林水産省植物防疫所／国土交通省／大分県庁／鹿児島県庁／長崎県庁／(一財)日本食品分析センター／(公財)園芸植物育種研究所／ヤンマーホールディングス(株)／(株)ミツカン／(株)トモク／大塚食品(株)／サンヨー食品(株)／(株)新日本科学／(株)JR東日本情報システム／(株)オアシス／白ハト食品工業(株)／花王(株)／ひかり味噌(株)／三重大学医学部病院／京都大学医学部附属病院／日本赤十字社 大津赤十字病院／国立病院機構／摂南大学(教員)／龍谷大学(教員)／大学院博士後期課程進学／起業 など

教育・研究の特徴

Point 1 入学と同時に指導教員を選定します。教員1名あたりの指導大学院生数を少なくし、密な研究指導が実現できるようにします。

Point 2 多彩な講義科目の中から、各自が自身の研究に役立つ科目を組み合わせさせて履修できます(履修科目の決定に際しては指導教員がアドバイスします)。

Point 3 その際、各自の専門領域にとらわれず、異なる領域の科目も履修するようにアドバイス。これにより、学際的な知識を修得することが可能になります。

カリキュラム

各自の研究に必要な知識・技能を円滑に修得するために、指導教員が履修すべき科目の組み合わせを履修モデルとして提示します。なお、学際的な学びを実現するために、専門分野とは異なる科目群の科目履修を指示する場合があります。

農業生産科学モデル

動植物の生命現象の解明に関する基礎科学的な研究、動植物が成長する力を最大限効率的に発揮させることを可能とするような新しい農業生産方法の開発に関わる研究、従来とは異なる特性を有する新品種の開発に関する研究、食料の生産、加工、廃棄という「食の循環」の各プロセスにおける微生物の機能とその活用に関する研究、等に取り組む。

〈専門分野例〉発酵学、生態学、遺伝学、農芸化学、作物学、土壌学等

地域社会農学モデル

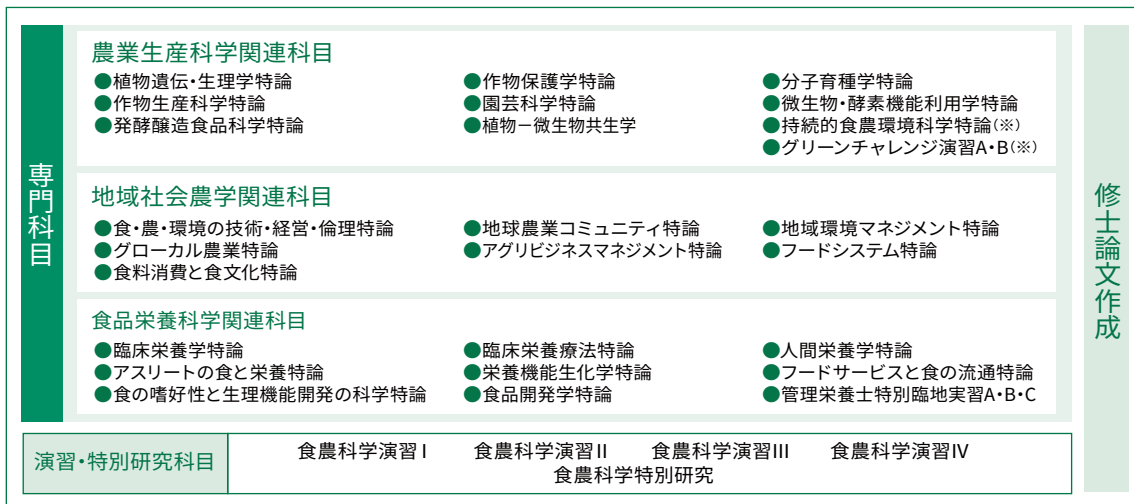
地域社会の再編成、地域経済の活性化を「農」の社会的再構築」という観点から捉え、グローバル化が進むなかで、経済的に自立するだけではなく、自然環境の保全や地域文化・歴史の継承も含めた持続可能な地域発展(地域社会・地域農業づくり)を実現するための方策を「食」と「農」のつながりを意識しながら、わが国および世界レベルの双方で社会科学的に考究する。

〈専門分野例〉農業経営学、経営・経済農学、環境社会学、民族植物学等

食品栄養科学モデル

「食の嗜好性」や「食品の栄養」、「食品の安全性」を中心としつつ、「臨床の現場も含め、ヒトの全てのライフステージにおいてQOLを高める食事・食品の開発」「望ましい食品の開発に関わる経済性や経営マーケティング法」等を考究する。管理栄養士資格をもった学生のみを対象とした実習科目管理栄養士特別臨床実習を開講している。

〈専門分野例〉食品科学、臨床栄養学、公衆栄養学、調理学等



(※)「持続的食農環境」高度専門人材育成プログラム科目

演習科目・特別研究科目担当教員一覧

※修士課程における主指導教員は、演習科目・特別研究科目担当教員一覧から選んでください。
 ※担当教員の専門分野は、P.5~6を参照してください。

科目名	選・必	単位	担当者 (50音順)											
食農科学演習Ⅰ	必修	2	朝見 祐也	浅水 恵理香	淡路 和則	石原 健吾	岩堀 英晶	ウエンダコン S.K.						
食農科学演習Ⅱ	必修	2	岡崎 史子	尾形 凡生	尾崎 智子	落合 雪野	小野木 章雄	香川 文庸						
食農科学演習Ⅲ	必修	2	金子 あき子	楠 隆	神戸 敏成	阪中 幹祥	塩尻 かおり	柴 卓也						
食農科学演習Ⅳ	必修	2	嶋田 大作	鈴木 太朗	大門 弘幸	滝澤 理仁	竹歳 一紀	竹中 祥太郎						
食農科学特別研究	必修	8	田邊 公一	谷口 祐一	玉井 鉄宗	土岐 精一	中川 千草	中川 雅嗣						
			西澤 果穂	平山 喜彦	古本 強	別役 重之	榎田 哲哉	松村 篤						
			三浦 励一	三柴 啓一郎	村中 智明	望月 美也子	森泉 美穂子	矢野 真友美						
			山口 道利	山崎 正幸	山崎 英恵	山本 泰三	渡邊 洋之							

博士後期課程

想定される進路

- 「食」や「農」に関わる新発見・理論・技術を探求する国際水準の研究職
- 「食」や「農」に関わる諸課題の高度先端的な解決方法を考究する国際水準の研究職

主な進路先

滋賀大学/
福山女子学園大学 など

働きながら修了した学生の勤務先

長谷川香料(株)/ハウス食品(株)/藤産業(有)/ (株)木乃婦/京料理なかむら/京都大学/
龍谷大学/至学館大学/名古屋文理大学短期大学部/甲南女子大学/広島修道大学 など

教育・研究の特徴

Point 1 入学と同時に指導教員を選定し、在学期間にわたって継続的な研究指導が受けられるようになります。

Point 2 博士後期課程においても講義科目(1科目、食農科学特別講義)の履修を義務付けします。同科目では「食」と「農」に関わる最先端の研究動向や未知の研究領域について紹介するだけでなく、研究理論についても教授します。

Point 3 演習科目では、高度専門的な研究指導を行うとともに、研究成果を国内外に向けて発信するためのスキルについても教授します。

博士後期課程の開講科目

※博士後期課程における主指導教員は、演習科目担当教員一覧から選んでください。
※担当教員の専門分野は、P.5～6を参照してください。

区分	科目名	選・必	単位	担当者						
講義科目	食農科学特別講義	必修	2	大門 弘幸	渡邊 洋之	楠 隆	土岐 精一			
演習科目	農業生産科学特別演習Ⅰ	選択	4	浅水 恵理香	岩堀 英晶	尾形 凡生	小野木 章雄	神戸 敏成	阪中 幹祥	
	農業生産科学特別演習Ⅱ	選択	4	塩尻 かおり	柴 卓也	大門 弘幸	滝澤 理仁	竹中 祥太郎	玉井 鉄宗	
	農業生産科学特別演習Ⅲ	選択	4	土岐 精一	平山 喜彦	古本 強	別役 重之	村中 智明	松村 篤	
	食品栄養科学特別演習Ⅰ	選択	4	三浦 励一	三柴 啓一郎	森泉 美穂子				
	食品栄養科学特別演習Ⅱ	選択	4	朝見 祐也	石原 健吾	岡崎 史子	楠 隆	田邊 公一	谷口 祐一	
	食品栄養科学特別演習Ⅲ	選択	4	榎田 哲哉	山崎 正幸	山崎 英恵	山本 泰三			
	地域社会農学特別演習Ⅰ	選択	4							
	地域社会農学特別演習Ⅱ	選択	4	淡路 和則	落合 雪野	香川 文庸	金子 あき子	嶋田 大作		
地域社会農学特別演習Ⅲ	選択	4	竹歳 一紀	中川 千草	中川 雅嗣	山口 道利	渡邊 洋之			

社会人の方へ 働きながら大学院で学ぶ支援「長期履修制度」

仕事と学修の両立をサポート、最大6年計画で大学院修了も可能。

長期履修制度の概要

職業を有している等の事情により、通常の修了に係る年限では履修が困難な学生を対象に、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することが出来る「長期履修制度」を設けています。自分のペースで仕事と大学院の両立ができ、じっくり学ぶことができます。

対象者

長期履修学生となることを希望できるのは、次のいずれかに該当する方です。

- ① 職業を有している者
- ② 家事、介護、育児、出産等の諸事情を有する者
- ③ その他本研究科が相当な事情があると認めた者 (ただし、外国人留学生は対象としません。)

優れた研究業績を上げた方へ「早期修了制度」

新たに博士後期課程で早期修了も可能に。

早期修了制度の概要

農学研究科博士後期課程に1年以上在学し、優れた研究業績を上げた認められ、修了要件として定める単位を修得した大学院生の早期修了を認める制度です。

【博士後期課程】

通常	早期修了	
1年次	1年次	1年次
2年次	修了	2年次
3年次		修了
修了		

給付型奨学金について

1. 学内進学奨励給付奨学金

本学学部から本学修士課程に進学しようとする者、または本学修士課程から本学博士後期課程に進学しようとする者に給付する予約採用型の奨学金で、経済的支援を行い本学大学院への進学を奨励することを目的としています。

2. 成績優秀者給付奨学金

修士課程2年生及び博士後期課程2・3年生のうち、学業成績が優秀で、人物的にも優れた者に給付する奨学金で、研究意欲の向上及び優秀な人材の輩出を図ることを目的としています。

3. 研究活動支援給付奨学金

修士課程及び博士後期課程に在学する者のうち、研究活動を積極的に行う者に給付する奨学金で、研究活動の充実、研究成果の向上の喚起を図ることを目的としています。

在学生からのメッセージ

※掲載の学年、所属は取材時のものです。



水野 紗那さん

修士課程
2年次生
グリーンサステナビリティ研究室

本学農学研究科に進学したきっかけ

私は卒業研究で取り組んだコムギと緑肥の混作の研究をより深めたいと思い、進学しました。卒業研究では沢山の失敗を経験するとともに、一方で新たな課題の発見があり、さらに研究を続けてそれらの課題の解決を目指すことにとても興味を覚えたからです。

取り組んでいる研究テーマとその内容

マメ科緑肥作物のヘアリーベッチとの混作によるコムギの追肥窒素の低減の可能性について研究しています。コムギは穀物の中でも特に多くの窒素肥料を使用しており、コムギ栽培で必要となる窒素を緑肥作物で補い、環境に優しい農業の実現を目指しています。

本学農学研究科に入学して、一番良かったと感じたこと

本学の研究環境の整った実験施設や農場で栽培試験に取り組めたことです。研究圃場では作物生産の現場に近い条件で実験を行うことができ、自らの研究が実際の農業にどのように貢献できるかなどを考えながら研究に取り組めたことが良かったと感じています。



竹口 雄大さん

博士後期課程
2年次生
多細胞動態研究室

本学農学研究科に進学したきっかけ

私は他大学で修士号を取得した後、本研究科に進学しました。修士課程においても植物微生物相互作用に関する研究を行っていましたが、生命現象の理解にはその実像の捕捉が不可欠であると考え、顕微鏡技術を得意とする現所属研究室で博士後期課程に進学することを決めました。

取り組んでいる研究テーマとその内容

植物病原細菌および植物共生細菌の植物との相互作用、細菌同士の相互作用に関わる分子相互作用メカニズムの解明を目指して研究を行っています。研究では顕微鏡を使用したイメージング解析を中心に、様々な分子生物学的手法を用いて解析を行っています。

本学農学研究科に入学して、一番良かったと感じたこと

研究室の院生の人数が多く、研究テーマや実験手法に応じて、協力して教え合いながら研究を進めることができます。その中でチームとして研究に取り組む協調性を身につけられる点や、他のラボメンバーの実験を見て、自身の研究の参考にできる点良かったと感じています。

修了生からのメッセージ



松ヶ迫 洸希さん

修士課程
2025年度修了
鹿児島県大隅地域振興局農林水産部
農業技師

在学中に取り組んでいた研究テーマとその内容

私は有機農業の普及の障害となる外来害虫の影響を研究しました。農業が制限される中で、天敵のいない外来害虫の拡大は深刻な問題です。農家や行政への聞き取り調査を通じ、被害実態と対策を分析し、有機農業のさらなる推進に向けた指針をまとめました。

本学農学研究科での学びは現在どのように活かされていますか

現在は鹿児島県で野菜の普及指導員として、農家への技術指導に従事しています。大学院で外来害虫対策を研究し、現場の声を汲み取ってきた経験は、現在の業務で農家の切実な課題に寄り添う土台になっています。培った知識や分析力を武器に、日々課題解決に取り組んでいます。

本学農学研究科に進学を考えている人へのメッセージ

農学研究科は、専門を深める中で、多角的な視点を養える場所です。研究の試行錯誤や葛藤は将来の糧になり、自分の興味を信じて突き進んだ経験は一生の財産になります。ここはサポート体制も整っているので、一人で抱え込まず、困ったときは教授や先輩を頼りにして頑張ってください。



青木 るみ子さん

博士後期課程
2021年度修了
滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科
准教授

在学中に取り組んでいた研究テーマとその内容

「給食施設における食中毒発生状況と衛生管理体制に関する調査・研究」をテーマに取り組みました。これまで報告事例の少なかった中小規模給食施設を対象に、食中毒の発生状況を詳細に把握するとともに、大量調理施設衛生管理マニュアルの遵守状況について調査を行いました。

本学農学研究科での学びは現在どのように活かされていますか

在学中に自身の研究の方向性が明確となり、人脈を通じて研究フィールドやテーマの拡充が図れました。研究・教育機関での基盤を築くとともに、専門領域の研究者としての視点を重視した学生への研究・教育指導が可能になったと感じています。

本学農学研究科への進学を考えている人へのメッセージ

農学研究科の特徴は、社会人学生の多さと学生一人ひとりが持つ背景の多彩さだと感じています。私が在学中には、食品企業社員の方も在籍されていたので、違った視点での話を聴くことができる有意義な時間であったと思っています。

教員紹介

※2026年4月現在

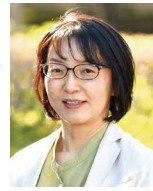
給食施設のおいしくて
安全・安心な食事の提供のために

朝見 祐也 教授 **M D**
(給食経営管理学研究室)
給食経営管理論、調理科学



植物寄生性線虫の
エコゲノミクス

浅水 恵理香 教授 **M D**
(線虫ゲノム科学研究室)
植物保護科学、遺伝育種科学



農業経営の
行動原理を解明する

淡路 和則 教授 **M D**
(食農ビジネス研究室)
農業経営学、農業組織論、農業
職業教育、バイオマス利用



植物生理に基づく果樹の
栽培技術開発

尾形 凡生 教授 **M D**
(果樹園芸学研究室)
果樹園芸学



食べものとするものをめぐる
人と植物のかかわり

落合 雪野 教授 **M D**
(食文化・地域文化研究室)
民族植物学、東南アジア研究



データから知恵を引き出す

小野木 章雄 教授 **M D**
(生命データ科学研究室)
遺伝育種科学、統計科学



「かおり」が繋げる関係

塩尻 かおり 教授 **M D**
(化学生態学研究室)
生態学、昆虫と植物相互作用



農作物の個体の姿とともに、
群落としての生き様を探る

大門 弘幸 教授 **M D**
(グリーンサステナビリティ研究室)
作物生産科学、作物生態生理学



農山村の持続可能な発展を
どう図るか

竹歳 一紀 教授 **M D**
(食料・農業・環境経済学研究室)
農業経済学、経済発展論、
環境政策論



植物が「揺れる」環境に
応答する仕組みを解明したい

古本 強 教授 **M D**
(環境生理学研究室)
植物生理学、生化学



視覚でとらえる植物の免疫

別役 重之 教授 **M D**
(多細胞動態研究室)
植物保護科学、植物分子・生理科学、
植物免疫学、微生物生態学



構造(形)から味の本質に迫る

樹田 哲哉 教授 **M D**
(食品化学研究室)
食品科学、構造生物化学



タンパク質のかたちから
生命の謎

山崎 正幸 教授 **M D**
(応用生化学研究室)
構造生物学、タンパク質のX線
結晶構造解析



食品や飲料で気分は変わる

山崎 英恵 教授 **M D**
(食品生理学研究室)
食品科学、栄養化学



病態と栄養をより深く理解する

山本 泰三 教授 **M D**
(病態栄養学研究室)
内科(糖尿病、代謝学、内分泌学)、
病態栄養学



腸内細菌とヒトの共生を
理解する

阪中 幹祥 准教授 **M D**
(共生微生物学研究室)
応用微生物学



農作物を加害する害虫に
どう対応するか？

柴 卓也 准教授 **M D**
(応用昆虫学研究室)
応用昆虫学、植物保護科学



農業・農村の多面的機能と
地域の持続可能な発展

嶋田 大作 准教授 **M D**
(地域農業・環境経済学研究室)
環境経済・政策学、地域農業経済学、
自然資源管理、commons研究



作物栽培のウソ？ホント？

玉井 鉄宗 准教授 **M D**
(植物栄養学研究室)
土壌・植物栄養学



現場から知る
自然環境とのつき合い方

中川 千草 准教授 **M D**
(地域マネジメント・資源保全研究室)
環境社会学、地域研究



植物の病気を防いで
農業生産に貢献する

平山 喜彦 准教授 **M D**
(植物病理学研究室)
植物病理学、植物保護科学



食農・健康科学×データサイエンス

鈴木 太郎 講師 **M**
(データ数理研究室)
バイオインフォマティクス、
公衆衛生学



青果物の香気生成機構と
品質向上

ウェンダ・コーン S.K. 講師 **M**
(収穫後生理学研究室)
収穫後生理学



日本人の生活は100年間で
どう変わってきたか

尾崎 智子 講師 **M**
(日本の食文化研究室)
省都衣服の生活文化史



ゆりかごから墓場までの
スポーツ栄養学

石原 健吾 教授 **M D**
(運動栄養学研究室)

スポーツ栄養学、運動生理学、
栄養生理学



小さな線虫が引き起こす
大きな農業被害

岩堀 英晶 教授 **M D**
(応用線虫学研究室)

線虫生態学、植物保護科学、
抵抗性育種学



病院や施設で
お坊さんが働いている？

打本 弘祐 教授 **M**
(真宗学研究室)

仏教学(親鸞思想)、社会学



日本の農業の担い手は誰？

香川 文庸 教授 **M D**
(農企業経営情報会計学研究室)

農業経営学、農業会計学、
経済統計学



食を通じて次世代を担う
子どもの健全な発育を目指す

楠 隆 教授 **M D**
(小児保健栄養学研究室)

小児科学、アレルギー、
疫学・予防医学



植物資源に支えられる
私たちの生活

神戸 敏成 教授 **M D**
(花卉園芸学研究室)

園芸科学・植物資源学



安全な「食」のための
微生物研究

田邊 公一 教授 **M D**
(応用微生物学研究室)

分子生物学、微生物学



デザイン通りの品種改良を
目指して

土岐 精一 教授 **M D**
(植物ゲノム工学研究室)

植物ゲノム工学



データサイエンスを駆使して
環境に優しい発展を探る

中川 雅嗣 教授 **M D**
(食・農資源経済学研究室)

食料・農業経済学、農業政策論、
計量経済学



足元に目をこらして
広がった視界

三浦 励一 教授 **M D**
(雑草学研究室)

雑草学、人と植物の関係史



バイオテクノロジーを
品種改良に役立てる

三柴 啓一郎 教授 **M D**
(植物育種学研究室)

遺伝育種科学、
応用分子細胞生物学、園芸科学



フードシステムにどう接近するか

山口 道利 教授 **M D**
(フードシステム学研究室)

経営・経済農学、フードシステム論、
獣医経済疫学



地力とは何か

森泉 美穂子 教授 **M D**
(土壌学研究室)

土壌学



管理栄養士の立場から
食物アレルギーを攻略する

岡崎 史子 准教授 **M D**
(栄養教育学研究室)

栄養教育論、食物アレルギーに関する
研究、モノクローナル抗体の作製と応用



世界の市場で日本の食を
いかに売るのか

金子 あき子 准教授 **M D**
(フードビジネス研究室)

経営・経済農学



変わりものコムギを
品種改良に利用する

竹中 祥太郎 准教授 **M D**
(植物遺伝学研究室)

遺伝育種科学



受粉しなくても果実を形成する
単為結果の謎に迫る

滝澤 理仁 准教授 **M D**
(野菜園芸学研究室)

生物系・農学・生産環境農学・
園芸科学



病気の予防に役立つ食習慣を
明らかにする

谷口 祐一 准教授 **M D**
(公衆栄養学研究室)

公衆栄養学



作物の潜在力を引き出すことができる
環境調和生産システムを追求する

松村 篤 准教授 **M D**
(作物学研究室)

作物生産科学、
植物栄養学・土壌学



『食べる』を健康につなげる視点

望月 美也子 准教授 **M**
(応用栄養学研究室)

応用栄養学



人と生き物のかかわりを考える

渡邊 洋之 准教授 **M D**
(環境史・環境社会学研究室)

環境史、環境社会学



新たな食素材を発掘する

西澤 果穂 講師 **M**
(食品素材利用学研究室)

食品科学



植物の情報処理の巧みさを探る

村中 智明 講師 **M D**
(情報生物学研究室)

植物分子・生理科学、
生物多様性・分類、時間生物学



予防と治療を支える
栄養管理を目指して

矢野 真友美 講師 **M**
(臨床栄養学研究室)

臨床栄養学



龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 農学研究科

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

びわ湖大津キャンパス※ 〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
Tel 077-599-5601 agr@ad.ryukoku.ac.jp

※2027年4月、「瀬田キャンパス」より名称変更。



農学研究科の HP はコチラから

<https://www.agr.ryukoku.ac.jp/graduate/>

■ 入試について

「2027年度入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/nyushi/>

■ 学費・諸会費について

2027年度学費・諸会費については、「2027年度入学試験要項」をご参照ください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

